

## オーガニックコットン栽培農家さんをご紹介します。

### 第2回 仲野愛子さん (75歳)

仲野さんは、震災後の2月12日に開催された「第3回いわきサンシャインマラソン大会」のゴール会場で沢山の出店ブースの中、ピープルのブースで可愛いコットンベιβを購入。そこでコットン栽培のアンケートに答えたことがきっかけとなり、自宅側の100坪ほどの畑を提供。以来コットン栽培に関わるようになりました。ただ最初の年は土地の提供だけとっていたため、県外からのボランティアさんが頑張る姿に感心しながら見守っていたとのこと。しかし、数日後には又雑草が生え始めこれは見ていられないと、持ち前の積極性で毎日畑の手入れに取り組むようになりました。

その後ピープルが開催する栽培の研修会や勉強会には欠かさず参加。今年3月県内のコットン栽培者が集う研究会に参加し、刺激を受けた仲野さんは、今年から自宅裏の小高い畑にアップランド種の白綿を栽培しています。リース作品作りの夢があるからとのこと。

お米中心の農家に嫁いで50年。4人のお子さん達も巣立ち、ご主人も逝ってしまった現在、仲野さんは水族館のアクアマリンのボランティア活動のほかダンスやカラオケなどにも挑戦し、充実の日々を過ごしています。

「とにかく暇な生き方はゴメンなんです」とおっしゃる仲野さんの表情は、明るく少女の様に輝いていました。



## コットンベιβ 新しい仲間が誕生しました!

いわきと言えば「フラガール」。平成18年に映画化され全国的にも有名になりました。震災後、全国の高校生がフラダンスを競う「フラガールズ甲子園」も今年で5回目を迎え、ますます熱を帯びています。今年も21校217名の高校生たちが集い、8月22日~23日にかけていわき市芸術文化交流館アリオスを会場に開催されます。

この度ピープルではこの大会に向けオリジナルコットンベιβ「フラガール」を誕生させました。茶綿と白綿の2種類ありますが、レイの代わりにビーズを使い、赤黄オレンジ色の3種類のドライフラワーの小さな花を髪の上に付け華やかさを表現しました。茶色い実が付いたヤシの木の前で「Aloha」と踊る姿はスパリゾートハワイアンズの舞台で踊る彼女達を彷彿させるものです。

折しも7月14日TBSテレビの「あさちゃん」で「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」が取り上げられ、その直後から人気が沸騰。今「フラガール」を購入したいとの申込が事務局に殺到しています。

ところで、このベιβは「フラガールズ甲子園応援グッズ」として売上の10%をフラガールズ甲子園に寄付する事になっています。全国の皆様に応援頂きたいと思ひます。



## 富岡町みんなの畑

市内小名浜上神白(カミカジロ)のコットン畑の一角に、小さな看板が立ちました。「富岡町社会福祉協議会 みんなの畑」。ここは、双葉郡富岡町からいわき市内に避難して来ておられる方々が月1回集まってきて、コットン栽培を通して交流するための圃場として、5月から動き出した場所なのです。

震災から4年半近くが経過し、避難生活が長引く中で仮設住宅・借り上げ住宅・新たにいわき市内に再建された住宅・県営の復興公営住宅と、富岡町から避難しておられる方々の暮らし方も様々になっているそうです。そうした避難生活の移り変わりに寄り添ってこられた町の社会福祉協議会には、「なかなか顔を合わせられない。いわき市民の方たちと交流する機会がない」との声が寄せられていたそうです。そこで、企画されたのが、コットン畑での作業を通しての交流の場作りでした。これまで3回行われた作業日には毎回、20名以上の方が集まり、4年半振りの鍬の感触や隣近所を気にすることなく大声で笑い合うことを楽しんでくださいました。秋には収穫祭も企画され、富岡町だけでなくたくさんの方々が集いあえる、正に「みんなの畑」にしていこうと準備が進んでいます。作業日は毎月第3火曜日午前中です。みなさんもご一緒に如何ですか?



## 広野町で古着回収本格スタート

前回の会報で双葉郡広野町で古着回収ボックス設置について、掲載したところですが、この7月から本格的に古着の回収が始まりました。

広野町では各家庭に「古着リサイクルボックスの設置について」というチラシを配って設置場所や回収するもの・しないもの・出し方のルール等詳細を周知しています。双葉郡ではこうした取組は初めてだけに地元メディアも大きく取り上げています。

古着を提供した住民からは「便利だな。いや~大した事始まったもんだ」「古着の処分は悩みの種だったけれど、これで解決だ。全くだいことだよ」との声が寄せられ、本会としても今後、古着リサイクル活動に力を入れていきたいと思ひます。

ただいわきから広野町までは約40キロ離れており、いわき市内のように毎日回収という訳には行かず、月2~3回が限度であることから課題を抱えています。ボックスから溢れているような場合は持ち帰って頂くよう、住民の皆様にはご協力頂きたいと思ひます。



## 復興庁 霞が関子ども見学デーでコットンベιβ作りワークショップ開催

7月29日と30日の2日間に亘って復興庁、霞が関子ども見学デーが開催され、そこで本会が取り組んでいるコットンベιβ作りをワークショップ形式で開催することになりました。この中では人形作りだけでなく綿繰り作業の体験もして頂くこと、綿繰り機と綿繰り後の綿から不純物を取り除きカード機にかけやすいようフワフワの状態にするための綿弓という道具も持ち込み、併せて体験していただきます。

講師は、コットンベιβのなかでもキャップちゃんという可愛い人形作りを担当して下さっている広野町の仮設住宅のお母さん達2名と事務局から1名の3名が担当します。

2日間で100名近い小学生たちと体験交流をすることになりますが、いわきでのコットン栽培の現状や小中校での取組も紹介させて頂くことにしています。これを機に福島への理解が深まって欲しいと願っています。

## 水俣研修に向けて

今夏も市内の中高生を水俣に派遣する事業が実施されます。(いわき市明日をひらくづくり事業) 本会からの募集に対し、今年度は、市内4中学校、2高校、1高専から11名の参加希望がありました。

7月22日、第1回の事前研修会が催され、集まってきた生徒の皆さんは、それぞれがこの研修を通して成し遂げたいことを語り合いました。派遣研修は8月17日~22日の5泊6日で実施され、秋には彼らの得た学びを伝える報告会の開催も予定されています。



## 地球市民フェスティバルが催されます!!

毎年恒例の地球市民フェスティバルの開催が決まりました。今年も、太平洋諸国舞踊祭と同時開催です。早速、実行委員会が開かれ、イベント企画の話合いが進められています。期日は10月3・4日。会場は小名浜港アクアマリンパークです。

現在、国際交流関係の事業を行っている皆さんの参加を募っています。お問い合わせは、いわき市民国際交流・協力団体連絡会(TEL0246-52-2511ザ・ピープル内)まで。どんなフェスティバルになるか、どうぞ楽しみに!!

### 私たちの活動を会員として支えて下さい。会費納入をよろしくお願い致します。

- 会費：活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方) 2,000円/年
- 賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年
- 郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。